

財団だより

第113号

2007.3

多摩川

事業年報特集号



五本鉤のひっかけ竿の先 / 鈴木由太郎蔵



写真撮影
伊藤 信男
(いとう・のぶお)
世田谷区代田在住

たまたがわの生きものたち - セイヨウカラシナとカワセミ -

多摩川の支流、野川は、国分寺市にある日立中央研究所敷地内の池にその源を有し、世田谷区二子玉川で多摩川に合流する、全長約20kmの小さな川です。その流れは、ハケとよばれる国分寺崖線からの幾多の湧き水が流れ込んで形成されています。春先には、その土手が、セイヨウカラシナの黄色い花で埋め尽くされますが、それはまさに「春の小川」そのものです。セイヨウカラシナは、食用として西欧から導入されたものが野生化したもので、冬になる前に発芽し、冬をこして春先に開花する2年草のアブラナ科アブラナ属の植物です。日本では関東以西、特に関西地方の河川敷などで大繁殖しているのが見られます。

野川付近一帯でも、背が青色、腹が橙色、喉が白色、足が赤色と、色彩のきれいな鳥であることから、「水辺の宝石」とも、「淡水の王様 (King Fisher)」とも呼ばれるカワセミ (ブッポウソウ目カワセミ科) が見られます。体調17cmとスズメくらいのもので、嘴が少し長めなのが特徴。本州以南では一年中見られる留鳥で、ウグイ、オイカワなどの川魚やカエル、ザリガニなどを餌とし、水辺の土質の崖に60cmから1m程度の深さの巣穴を掘って生息します。近年、土手のコンクリート化や河川の汚染による魚類の減少などによって、カワセミの生息域や個体数の減少が報告されています。

撮影場所は、カワセミが都立野川公園 (西武多摩川線多摩墓地駅下車) セイヨウカラシナが喜多見 (小田急線喜多見駅下車) 付近の野川堤です。

Contents 目次

- 巻頭言
育ち行く人々の心のなかに多摩川を …… 2
- 特別寄稿
連載「多摩 水と人と」をふり返って …… 3
- 福生水辺の楽校の取り組み …… 4
- くにたち健康ウォーキングマップ …… 5
- レンズを通して見た50年 …… 6
- 財団事業年報特集
事業日誌 …… 7
研究助成事業 …… 9
第12回助成研究ワークショップ …… 13
主な環境関係財団の助成研究一覧 …… 14
多摩川関連の主な新聞記事 …… 17
多摩川流域で活動している団体一覧 …… 21
当財団の概要 …… 22

育ち行く人々の心のなかに多摩川を



東横学園女子短期大学
名誉学長

堺 孝夫

山裾の森を背に静かにたたずまう茅葺の家、その家々の前景には小川と畑、描かれている絵は日本人が心に描く典型的な風景と言われる。人は心休まる絵を心に描くことがあります。周りを山々に囲まれるとほっとすると、山あいには育った人から聞かされたことがあります。筆者の心の絵では、小高い山から見下ろすと田んぼの向こうに家並みが続き遥かには海が見え、そこには大きな川が注いでいます。高校大学と仙台で過ごしたので、広瀬川に写る青葉山も浮かびます。

命の源ともいえる川も産業排水のみならず、生活排水によって汚れてしまいました。多摩川も例外ではありませんでしたが、とうきゅう環境浄化財団を始め多くの方々の活動によって甦ったのは素晴らしいことです。その財団から評議員としてお誘いを戴いた際には喜んでお引き受けしました。それは当時の横田理事長から40年来いろいろとご指導頂いてきたことと、オゾン発生の研究に携わっていたことからです。オゾンは排水の浄化や脱臭に効果がありヨーロッパで使用されておりましたが、近年東京都水道局などでも使用するようになりました。

友人に連れられ多摩川に筆者が初めてめぐり会ったのは50年以上前、清流豊かな小河内ダムの建設地でした。その後生活排水の増加によって汚濁化が進みましたが、やがて浄化が進みきれいになりました。多摩川河畔の武蔵工業大学に職を得たので、その様子を日々眼にし、汚れには落胆しましたが、浄化されてゆく姿を喜んできました。

数年前になりますが多摩川の雰囲気を味わうため、青梅線の御嶽駅から調布まで歩きました。緑濃い道を歩きながら多摩川に注ぐ小川のせせらぎと小

鳥の音を楽しみながら下ってくると梅林があります。そのあたりには吉川英治記念館や玉堂美術館があり、文人墨客が好んで移り住まうのは極めて似つかわしい土地であったことが偲ばれます。さらに下った羽村では、後日当財団の現地調査の際に、市民活動家の協力を得て多摩川河川敷の植物を外来種から守る研究が行われているところを見学する機会がありました。少々飛躍する思いもありますが、アルプスの麓では山麓タール（Tal 谷あいのこと）ごとに文化があるという言葉思い出しました。多摩川の作り出す文化という見方も面白いでしょう。

さて、東京都心で心静かになれるところといえば明治神宮の森ではないでしょうか。邑々には鎮守の森がありましたが、都会化によって神社はビルの谷間に追いやられ、参詣するところではあってもこころ静まる場所とは言えなくなっています。

始めに心に浮かぶ風景という書き出しをしましたが、高層ビルの街で育った人々にこころの安まることとしてインプットされる風景は何になるのでしょうか。

多摩川の外にも筆者は善福寺池から神田川へ、また仙川、野川などの散策も楽しんでいます。特に木々の多いところではこころが安まるのを覚えます。幸いにも多摩川や国分寺崖線を持つ世田谷や多摩地区には心休まる森や水があります。これらが育ち行く人々の心に染み入る風景となってくればと願っています。



等々力溪谷は筆者にとって
心休まる風景のひとつである

特別寄稿

連載「多摩 水と人と」をふり返って



朝日新聞 東京総局
立川支局
記者 石川 幸夫

朝日新聞の多摩版とむさしの版で、昨年の6月から11月まで、「多摩 水と人と」という連載記事を執筆しました。

多摩川をはじめとして市民が集う水辺に恵まれた多摩で、その水や水辺を守り、生かそうと取り組んでいる人たちの姿を紹介しながら、水をめぐる今の課題を示そうと考えた企画でした。

連載は6月、多摩から全国へと広がった市民による水質調査の話でスタートさせました。

市民が、川や湧水など身近な水辺の水質を自らの手で調べて記録するという「身近な水環境の全国一斉調査」です。3年目となった昨年は、全国の600を超えるNPO法人やグループが参加し、約6000地点を調べる大きな調査となりました。国土交通省などとも連携した活動です。

この話を知ったとき、何より驚いたのが、その調査の先駆けは多摩での活動であり、それが全国へと輪を広げたということです。それも、市民の側から始まったという点に強い興味を覚えました。

活動の中心にいたのが、東京農工大学名誉教授の小倉紀雄さんでした。

小倉さんは、取材の中でこう語りました。

「水辺を守っていくには100年間見つめ続けるような長い眼が必要です。行政や専門家だけでは限界があります。市民の参加が不可欠なのです」この言葉は、その後の取材の原点となりました。

取り組みを複数の視点で示したいと考え、連載は、ひとつのテーマをそれに携わる複数の人の話で紹介していく方法をとりました。

小倉さんら市民による水質調査の話は全5回。最初に小倉さんの活動と思いを2回に分けてつづいたあと、調査の事務局長を担う高橋克彦さんの苦労話を紹介しました。その話も興味深い内容でした。

意義ある調査も人の輪を作らなければ広がりません。高橋さんは多摩川水系の野川で環境問題を考え、様々な人たちと手を携えてきた人です。多摩で生まれた調

査を全国に広げたいと、各地で活動するNPOの代表者を東京に招きました。しかし思惑通りには進みません。各地には独自の考え方と手法があるからです。一斉調査に対する提案に疑問が投げかけられました。

会場の空気を一変させたのが、宮崎県のNPO理事の呼びかけでした。「環境問題は対岸の火事と考えてはだめなのは」。高橋さんはこの言葉で、調査を成功させる手応えを感じたと振り返っています。

続く回は、測定機材の「バックテスト」を取り上げました。より簡単で、より正確に調べることのできる道具の存在は、市民調査にはなくてはならないものです。

そして最後は、市民が調べた記録をまとめていく事務局スタッフの佐山公一さんの思いをつづりました。「100年の眼」を持つことは、気の遠くなるような活動です。

今、その基礎を築いている佐山さんの役割はとても重要です。「自分ひとりでも続けていくんだという強い意志を持つこと。そうして話せば、きっと伝わる」。佐山さんはそう信じて取り組んでいました。力強さを感じました。

連載は以降、「清流の郷で」(日野市)「流れよ再び」(野川)「雨の恵みに」(小金井市の雨水対策)「野菊よ咲け」(多摩川河川敷でのカワラノギクプロジェクト)と続け、最終的に計13のテーマ、約60人を紹介しました。

振り返ると、様々な水辺の現場を歩きながら、幾度も「100年の眼」に立ち返りました。水はその地域だけでは守れません。加えて自分の世代だけの取り組みでも守れない。そうした思いを改めて感じた取材でした。

笠取山の「水干」で落ちた小さな一滴が、最後は多摩川の流れとなって海にそそぐように、小さな人の思いも、やがて大きな流れになることを信じ、これからも水辺を見つめていきたいと考えています。



連載記事の紙面

多摩川に学ぶ

福生水辺の楽校の取り組み



福生水辺の楽校
ボランティアスタッフ

北村 章

福生に水辺の楽校の種がまかれたのは、「福生市環境基本計画市民プラン」を作成した平成14年にさかのぼります。44名の市民が1年間、延べ80回にも及ぶ会議を重ね、行政計画の基になる「市民プラン」を作りました。この過程において、行政と市民と一緒に環境活動に取り組むという方向が出来たのです。そんな折、福生市内に拠点を置くNPO法人「自然環境アカデミー」から水辺の楽校に取り組まないかとの話がありました。市としても環境施策の展開を考えていたので、一緒に取り組んでくださる市民を募集し、検討を重ね、平成16年3月に水辺の楽校プロジェクトに登録しました。

第1回の活動は「かっぱまつり」と称して、平成16年8月に行われました。親子合わせて80人ほどの参加があり、手作りの竿での魚釣りや、ペットボトルでいかだを作って川下りをするなど楽しい一日でした。その後も月1回のペースで活動を続けています。川原でバッタ捕り、鳥の観察、川にある素材でのクリスマスリース作り、どんど焼きへの参加など、福生市において貴重な自然資源である多摩川で、いろいろな活動を行っています。年間のスケジュールはその季節ならではの活動を主体に組み立てています。福生水辺の楽校は拠点を持たず、福生市内の多摩川全体がその活動の場になっており、季節に合わせ場所を変えながら実施しています。(一部、多摩川整備計画の情操空間では活動していません。)

活動では、スタッフが安全確認などの役割を分担しながら進めています。都心から転居された方も、このような機会がなければ多摩川に遊びに来ることはなかったと家族で参加してくれています。多摩川がこんなにきれいで、いろいろな生物がいて、その中で遊ぶことがこれほど楽しいものとはと、参加された方からの声があります。子どもと一緒に参加した親が、その楽しさからスタッフに加わってくれるなど、輪が広がります。

また、市内の小学校の環境学習への支援も行っています。生物をはじめ多摩川に詳しい者は講師となり、専門的な知識を持たないスタッフも、周囲へ気を配り、子どもの安全を見守ったりしています。学校の人手不足を補うことで、危険だということで及び腰であった川での学習も可能になりました。

スタッフ自らが楽しめる活動でないとは継続は出来ません。その点、私たちは子どもの頃を思い出しながら、ややもすると子どもそっちのけで楽しんでしまうほどですので、活動はさらに充実していくのではないかと思います。子どもに楽しく自然体験をさせるということが基本的なスタンスです。四季折々の川の姿を見せ、川で遊ぶ楽しさを危険回避も含めて体験させたいと考えています。今後の課題としては、今日は何々をやるという決め事がなくても、子どもたちが集まり、その日の多摩川で出来ることをやるようになれることです。そんな中で、子どもたちが主体的に多摩川で遊べるようになり、異年齢の集団の中にリーダーが育ってくれるのが理想です。



かっぱまつり ペットボトルいかだ



多摩川で「ガサガサ」

多摩川散歩

みんなでくにたちを歩こう

健康ウォーキングマップについて

国立市保健センター

国立市保健センターでは、市民と協働で健康ウォーキングマップを作成し、市の施設等で無料配布しています。このマップはコース選びからイラスト描きに至るまで、すべて「ウォーキングマップづくりの会」の市民と職員の手作りによるもので、歩きながら楽しめるように工夫が凝らされています。今回は平成18年9月に完成した4コースの中からNO.3「谷保一番地コース～府中用水に沿って～」をご紹介します。

谷保一番地コース～府中用水に沿って～

(地図掲載)

コース概略

府中用水の流れに沿って、立川段丘上の立派な樹木林を眺めながら、「谷保一番地」を目指して歩くコースです。

みどころ・ききどころ

- ・立川段丘の四季折々の樹木林
- ・くにたちの田園風景
- ・古代の遺跡
- ・谷保一番地の石碑
- ・府中用水のせせらぎ
- ・水中の植物・小魚
- ・かるがも、せきれい

距離 約2km

コース順路

谷保駅から谷保天満宮(谷保天神)梅林に向かい、梅林の東側の崖(階段あり)を下りると府中用水の流れにでます。用水路(下の川という)の脇には遊歩道が整備され、とても歩きやすいコースです。用水の流れをBGMとして立川段丘の四季折々の美しさを称える樹木林を楽しみながら、府中市境の「谷保一番地」石碑を目指します。途中、古代人の住居址等の遺跡もあります。これは、この地が昔から湧水や水の豊富な素晴らしい生活環境であったことを意味しています。

このマップを作ったそもそものきっかけは、平成15年3月にまとめた「国立市民の健康に関する意識・実態調査」の結果にあります。このなかで一番多く行われている運動が「ウォーキング・散歩」とあり、これを支援する目的でわかりやすいマップをつくること「元氣なくにたち健康づくり計画」の中で位置づけられました。現在もマップ作りは継続中で、新しいコース作りに向けて調査や作業をしています。

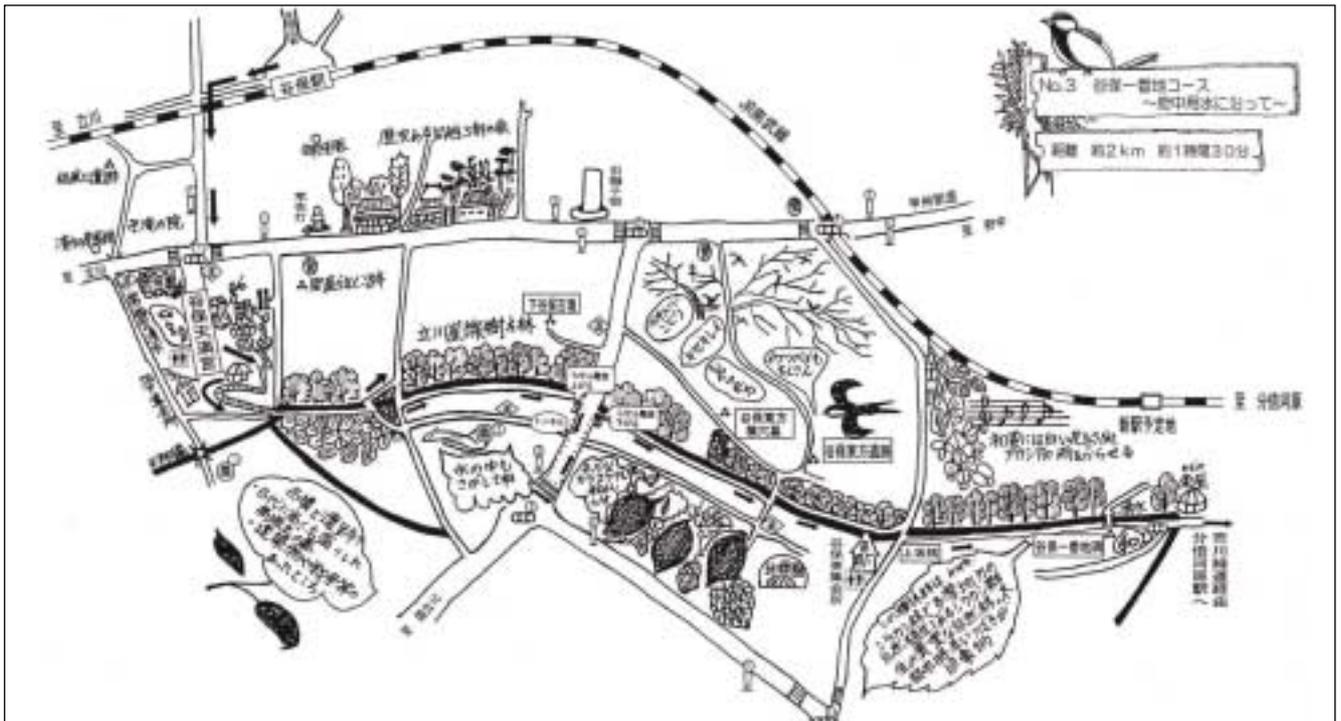
このマップをきっかけにぜひ街を歩いていただき、環境や文化とともに健康にも関心を持っていただければと考えています。

ウォーキングマップ配布場所

保健センター、市役所情報コーナー、北市民プラザ、南市民プラザ、公民館、中央図書館、市民総合体育館等

ホームページ 国立市ホームページ

(<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/>)より、「健康・医療」からアクセスしてください。



私と多摩川

レンズを通して見た50年



アマチュア写真家
榎本 良三

私の家は武蔵野台地が多摩川に接する三つの段丘（八ヶ）の中で一番南の多摩川に近い段丘の上にあります。従って小さい時から多摩川に親しんでいました。戦前義務教育は6年迄でしたが、その上に高等科が2年あり、2年生が餓鬼大将になりその人から従って遊んでいました。その人は太平洋戦争で戦死されましたが、川遊びの時そこは深いぞとか、あそこは流れが急で危ないぞ、などとよく教えてくれたので小学生の間にみんな川になれ溺れるような子供はいませんでした。川遊びの楽しさ、蛇籠の上から飛び込んだり、雑魚を釣っていたたま鮎が釣れた時の嬉しさなどは83歳になる今でも忘れません。その頃の多摩川の水は今より多く堤防にはアザミ、ヤブカンゾウなどが咲いておりイタドリがたくさん生えていました。また川原には河原撫子や月見草が一面に咲いていました。

私が写真を始めたのが昭和10年頃、旧制中学2年生の時父が写真好きの人達と一緒に「れいめい写そう会」と言うグループを結成し当時講談社の写真部員であった石川俊雄氏を指導者に迎え毎月例会を自宅で開いて写真を批評し合っていました。私はその様子を傍聴していたので何となく写真が撮って見たくなりました。そして父のつくった暗室で見よう見まねで現像焼付を覚えモノクロ写真を撮るようになりました。当時はただ面白くて写真を撮っており安井仲治や木村伊兵衛などの影響を受けアマチュアながら本格的に多摩をテーマとして写真と取り組むようになったのは現役兵として戦争を体験して帰った後の昭和25年頃からです。そんな父や私の撮った高度成長以前の多摩川や流域の村々の写真は、たましん歴史美術館に納められ

て多摩の現代史の史料として定着しています。

多摩川の現況が激的に変化したのは何と言っても昭和32年の小河内ダムの完成でしょう。勿論小河内ダムは都民の水を確保するための重要な施設ですが結果として玉川上水の取水のため、それ程多くなかった多摩川の水がさらに減少してしまいました。ちょうどその頃日本経済の高度成長が始まり多摩川流域の雑木林が切り倒され、田圃が埋められて住宅や工場が建てられ工場廃水や生活雑排水が多摩川に流れ込んだり、田圃での農薬の使用などで多摩川は死の川になりかかりました。家の近くの秋川と多摩川の合流点の昭和用水堰付近には洗剤の泡が立ちこめていました。堤防下の田圃にいたドジョウ、シジミ、ホタルなどは死滅しました。また子供たちの遊び場であった田圃のあぜ道まで自動車が入りしただけで外の遊び場を失いました。50年頃から水質汚濁防止法が施行され、流域下水道も年々に整備され昭島に大規模な下水処理場ができました。このような政府、自治体の施策とともに多くの民間の人々の努力によって多摩川は徐々に昔の姿を取り戻しつつあります。然しまだ充分とは言えないようです。ホタルの再生なども方々で試みられているようですがまだ充分な成功はおさめられていないようです。

東京という大都市を流れる多摩川で開発、治水、自然環境の保全の三つを調和して行くことは大変むずかしい事ですが、私は写真を通じて多摩川流域の美しさを伝え少しでも多摩川を昔の姿に取り戻す事に貢献したいと願っております。



秋川・多摩川合流点付近（1990年8月）

財団事業年報特集

1 事業日誌（2006年1月～2006年12月）

- 1月16日 平成18年度助成研究の公募を締め切る（応募件数42件）
- 1月23日 第369回常任理事会を午前10時30分から渋谷南平台東急本社で開催
- 第51回理事会、第47回評議員会開催について ほか
- 2月28日 第370回常任理事会を午前11時から南平台東急本社で開催
- 第48回定時選考委員会開催について ほか
- 3月1日 財団だより“多摩川”第109号（事業年報特集号）発行
- 特別寄稿「魚漁(らん)川お魚救出大作戦（とどろき水辺の楽校 代表幹事 鈴木眞智子）
- 巻頭言「多摩川とソーシャル・キャピタル」((財)統計研究会 理事長 宮川公男)
- 3月9日 第48回定時選考委員会を午後1時30分より、渋谷地下鉄ビル内会議室で、選考委員9名出席のもと開催
- 新規研究11件（学術研究6件、一般研究5件）、継続研究10件（学術研究6件、一般研究4件）をそれぞれ採択
- 3月23日 第47回評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催
第51回理事会を午前11時より南平台東急本社にて開催
- 平成18年度事業計画及び同収支予算の承認 ほか
- 3月27日 2005年度東急グループ会社表彰制度により「東急グループ賞」受賞
- 3月29日 第371回常任理事会を午前10時30分より、南平台東急本社にて開催
- 第20回多摩源流まつりへの協力について ほか
- 4月26日 第372回常任理事会を午前10時30分から南平台東急本社で開催
- 第52回理事会、第48回評議員会議案について ほか
- 5月4日 小菅村主催「第20回多摩源流まつり」を後援
- 5月29日 第48回評議員会を午後1時30分より南平台東急本社にて開催
第52回理事会を午後2時30分より南平台東急本社にて開催
- 平成17年度事業報告、収支決算の承認、評議員1名辞任1名選任
- 第48回定時選考委員会採択研究の承認 ほか
- 6月1日 財団だより“多摩川”第110号発行
- 特別寄稿「豊かな森づくりを目指して - 第10次水道水源林管理計画の策定 - 」
(東京都水道局水源林管理事務所 酒井健治)
- 巻頭言「私達の“意識”が社会を変える」
(NPO法人グローバル・スポーツ・アライアンス 常務理事 岡田達雄)
- 6月1日～ 環境学習副読本「多摩川へいこう」を10,000部増刷し、
- 7月31日 多摩川流域の小学校76校に8,742部贈呈
- 6月2日 千葉大学大学院医学研究院主催 出前講義「水の生命科学」後援
(会場：東京都立富士森高等学校) 同8月3日オープンキャンパスで実施
- 6月3日 千葉大学総合安全衛生管理機構・大学院医学研究院共催
市民講義「環境水から考える科学物質検査の現状と健康影響評価 その2」を後援
(会場：千葉大学工学部19棟115教室)
- 6月3日 千葉大学大学院医学研究院主催 出前講義「水の生命科学」後援
(会場：学校法人 山崎学園 富士見中学高等学校)

- 6月23日 第373回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催
- 平成18年度助成金贈呈式について ほか
- 7月19日 千葉大学大学院医学研究院主催 出前講義「水の生命科学」後援
(会場：学校法人 渋谷教育学園 幕張中学高等学校)
- 7月19日 平成18年度助成金贈呈式を正午より、渋谷東急インで開催
- 学術研究者6名、一般研究5名並びに理事・選考委員など約30名が出席
式の冒頭、ご来賓の今利裕之氏(経済産業省産業技術環境局 課長補佐)よりご挨拶、
並びに木原啓吉氏((社)日本ナショナルトラスト協会 名誉会長)による講話を実施
- 7月25日 第12回助成研究ワークショップ「身近な水環境を生き物の視点から考える
- 多摩川からの報告 - 」を午後1時より青山の国連大学会議場で開催
(コメンテーター：小倉紀雄 東京農工大学名誉教授、参加者78名)
- 7月26日 第374回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催
- 調査・試験研究助成の公募について ほか
- 8月10日 研究助成成果報告書発行(CD-ROM・研究概要小冊子添付)
- 学術研究第34巻(9件収録)、一般研究第27巻(9件収録)を各々制作し、多摩川流域
の図書館、教育委員会、国会図書館、首都圏の主な大学図書館等212施設へ贈呈
- 9月1日 財団だより“多摩川”第111号発行
- 特別寄稿「昭島市の水道事業 - 安くて美味しい水をいつまでも - 」
(昭島市水道局 浄水係長 白井三男)
- 巻頭言「多摩川・調布堰 雑感」(川崎河川漁業協同組合 理事 安住三郎)
- 9月1日 (社)国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」から平成19年度の助成が承認
- 9月15日 東京学芸大学現代GP「植物と人々の博物館づくり」(小菅村)プロジェクトに協賛
(平成21年3月31日まで)
- 9月27日 LTER(長期生態研究)プロジェクト・東京農工大学農学部附属FM多摩丘陵地実査
(東京都八王子市堀之内：12ha)をプロジェクトチームメンバーと事務局で視察、踏査、
併せて進捗状況の報告会により、現状を把握
- 9月28日 第375回常任理事会を午前11時から南平台東急本社で開催
- 特定公益増進法人申請について ほか
- 10月26日 第376回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
- 上半期決算、下半期収支見直し及び平成18年度決算予想について ほか
- 10月10日 継続研究4件ならびに特定研究のヒアリングを実施
~11月2日(一部、監督官庁の担当官が陪席)
- 10月12日 矢川流域の湧水群ならびに東京都流域下水道北多摩2号・水再生センターの現地視察、踏査
- 理事・評議員(代理含む)、助成研究者他11名で実施
- 11月11日 千葉大学大学院医学研究院主催 市民講義「水と緑の生命科学と大病から生還するための
健康科学に関する講演会」を後援(会場：八王子市「あったかホール」内・環境学習室)
- 11月28日 第377回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
- 継続助成研究中間ヒアリングについて(報告) ほか
- 12月1日 財団だより“多摩川”第112号発行
- 特別寄稿「カメに見る外来種問題」(NPO法人 生態工房 理事 佐藤方博)
- 巻頭言「水湧くプロジェクトから地域の再生へ」(三鷹市副市長 河村 孝)
- 12月22日 第378回常任理事会を午後4時から南平台東急本社で開催
- 公益法人制度改革への対応について(報告) ほか

2 研究助成事業

当財団では、平成18年度研究助成金贈呈式を、7月19日(水) 渋谷の東急インで開催し、新規の助成研究11件に助成金を贈呈致しました。継続研究10件も承認されていますので、本年度は21件を助成していることとなります。ここに全助成研究をご紹介します。(継続研究および8月にCD-ROMと概要小冊子が完成し配布、贈呈された研究については課題と研究者名のみ掲載)

< 新規助成研究 >

学術研究

多摩川で回復したカジカ个体群の系統分類に関する研究



糸井 史朗 (いとい しろう)

日本大学 生物資源科学部 助手

共同研究者

斎藤 高志 日本大学生物資源科学部 大学院生

鷲尾 明佳 日本大学生物資源科学部 大学院生

カジカは日本全国の河川に分布するとされるが、その個体数は全国的に減少しつつある。多摩川においても一時は絶滅したとも言われたが、近年その個体数が回復傾向にあるとされる。本研究は、多摩川を中心に全国の河川からカジカを採取し、そのハプロタイプ多様度を調べることで多摩川の個体群の系統的位置づけを明らかにしようとするものであり、現在の生物多様性が失われつつある現状では急を要するものである。また、多摩川および日本全国のカジカの個体群についてハプロタイプ多様度や系統関係を調べることで、近年多摩川で回復したとされる個体群が在来のものであるか、他地域からの移入集団であるか明らかにする。さらに、本研究を契機に多摩川に現存する在来固有種の保護の機運を高めると同時に、多摩川における環境および生態系回復のモデルとして、全国の河川の現状把握および生態系の多様性維持および回復の方向性を定める際の指針となるような成果を得たい。

多摩川河口域の鳥類相の長期的変遷と保護に関する研究



桑原 和之 (くわばら かずゆき)

千葉県立中央博物館 生態・環境研究部
環境教育研究科 上席研究員

共同研究者

高木 武 水鳥研究会 副会長

嶋田 哲郎 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター 研究員

三沢 博志 船橋市立中央図書館 館長

首都圏を流れる多摩川にどのようなイメージを市民は、持っているのだろうか? 上流部はとてもきれいで、下流部はきれいではなく、河口部はきたなく自然が残されていないと思われているだろう。しかし、イメージと実際は全く異なる。研究代表者らは、1995年に河口域の水鳥相を調べ、鳥類相が河口で多様性に富み、湿地という貴重な環境が残されていることを明確にした。さらに、多摩川河口域は、国際的に重要な湿地と考えられた。前回の調査では、1990年代後半の鳥類相を把握した。約10年の経過で、河口域に生息している鳥類はどのように変化したのだろうか? 鳥類は、急激に減少しているというが、現状の詳細は不明である。なぜ、鳥類が減少しているのか? 鳥類の保護のために、過去の観察記録なども比較し、鳥類相の長期的変遷を調べ、解析し、鳥類の減少の原因を探る研究としたい。

多摩川流域における工業的土地利用の変化・機能転換と流域環境整備の課題



松原 宏 (まつばら ひろし)

東京大学大学院 総合文化研究科 助教授

共同研究者

浜田 博之 東京大学大学院 総合文化研究科 大学院生

多摩川流域は、日本を代表する産業集積地域といえるが、産業構造や企業組織の再編に加え都市化の影響を強く受けてきた。閉鎖された工場も多く、それらの工場跡地は大規模マンションや商業施設などに転換してきている。外見は工場のままで、生産機能は国内の地方や海外に移転し、研究開発や試作などの機能に転換しているものも少なくない。本研究では、多摩川流域の工業的土地利用がどのように変化してきたか、主要工場の立地や機能がいかなる変化をみせてきたかを明らかにし、「多摩川流域工場変化マップ」を作成したい。その上で、工業的土地利用の変化および工場の機能転換が多摩川流域の環境にいかなる影響を及ぼしているか、企業や自治体の環境対策がどのように変わってきたかを検討し、流域環境整備の課題に新たな要素を加えていきたい。

多摩川沿川地域におけるオープンスペースと建築景観の実態に関する調査研究

特に建築物による眺望遮蔽の現状と河川の

景観資源価値への影響や住民意識について



進士 五十八 (しんじ いそや)

東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 教授
共同研究者

麻生 恵 東京農業大学 教授

青木いづみ 東京農業大学 助手

栗田 和弥 東京農業大学 講師

神藤 正人 東京農業大学 助手

都市化・人工化が進んだ東京にとって、多摩川は地域、土地を読み取る鍵であり、住民にとっては唯一変わらぬ座標軸、原風景である。筆者の「都市河川座標軸」概念は東京都景観マスタープラン(1994)と東京都景観条例(1997)に盛り込まれ、「景観基本軸」として位置づけられている。

本来河川のような公共のオープンスペースには、誰もが自由にアクセスでき眺望できなければいけないと考える。しかし現実には沿川に高層マンションが櫛比して眺望を遮り、その公共性を失いかけている。周辺住民から高層建築反対運動が起きており、マンション開発による沿川の高層化に対し、景観コントロールの必要性が高まっている。

本研究では基礎調査として、多摩川流域における建築物の高さ分布など実態調査を行い、河川への眺望景観に対する影響を把握し、多摩川景観基本軸保全への基礎的資料を提供したい。

歴史的・生態的価値を重視した水辺都市の再生に関する研究

日野の用水路網の保存・回復に向けた
市民的な取り組みをケースとして



陣内 秀信 (じんない ひでのぶ)

法政大学工学部 教授

共同研究者

- 高橋 賢一 法政大学工学部 教授
- 大江 新 法政大学工学部 教授
- 高村 雅彦 法政大学工学部 教授
- 永瀬 克己 法政大学工学部 教授
- 小島 聡 法政大学人間環境学部 教授
- 宮下 清栄 法政大学工学部 助手
- 神谷 博 法政大学工学部 講師 (株)設計計画水系デザイン研究室 代表
- 神谷 正巳 都市農地活用支援センター 専務理事
- 荒川 俊介 (株)アルテップ 代表
- 浅井 泰義 (株)エキープ・エスパス 代表
- 山本由美子 浅川勉強会 代表
- 内川 武 浅川勉強会 事務局
- 小笠 俊樹 日野市環境共生部 緑と清流課 課長
- 長野 浩子 法政大学大学院エコ地域デザイン研究所 研究生
- 石渡 雄士 法政大学大学院工学研究科建設工学専攻博士課程

都市郊外において、田園風景を特徴付ける水系・水域と水辺空間は、今もなお少なからず残存し、多くの市民は、こうした生態的環境価値や景観価値などに目を向け、固有の地域資源や地域遺産の保全と回復に立ち上がりつつある。21世紀の街づくり・地域づくりは、これら歴史遺産を掘り起こし生態的な環境の再生に向かわねばならない。また、その取り組みは、どちらかといえば市民発意型を基底に据え行政と農業者とが専門家を介して強固な連携の環を構築し推進することが要諦となる。

本研究は、市民による諸活動の成果と学術フロンティア推進事業による学際的研究成果との融合により「百年の大計に沿ったより実現性の高い水辺都市の再生」を目指すものである。このため日野市域を重点地域として選び、湧水～用水路空間の再生に向けた市民的取り組みをフィールドケーススタディとして実施するものである。

多摩川水系飲用水に関する市民コーディネータ育成アカデミーの設立

- 河川水と水道水との連動的水質悪化の検証と
原因究明に関する中流域市民との共同調査 -



鈴木 信夫 (すずき のぶお)

千葉大学大学院 医学研究院 (環境影響生化学) 教授
共同研究者

- 喜多 和子 千葉大学大学院 医学研究院 講師
- 鈴木 敏和 千葉大学大学院 医学研究院 助手
- 一村 義信 千葉大学大学院 医学研究院 助手
- 菅谷 茂 千葉大学 医学部 技官
- 金井 和美 千葉大学 医学部 技術補佐員
- 長尾 明子 千葉大学 医学部 臨時事務員

多くの家庭で浄水器が汎用されていることで推測されますが、水道法に基づくような通常の成分検査以外に、飲用水の安全・安心を保障する指標が求められています。水道水がもたらすヒト自身への作用です。そこで、超微量の環境ホルモン様化学物質などによるヒト細胞死の誘導を高感度で検出できる検査法を

開発しました。この方法で、まず、多摩川の水質を上流から下流まで調査します。特に、水道水源の採水地である小作より上流について調査します。さらに、多摩川水の供給源である地下水・湧水そして、多摩川の水のみから供給されている水道水の水質も精査します。このように、多摩川流域の水の生命科学的調査の検査値を21世紀初頭に刻印し、多摩川水改善の指標となることを願うものです。一方、この研究成果を多くの市民と共有できるように、市民講座活動をします。多摩川から水環境やヒトの健康科学を鳥瞰できる水学習のコーディネータの育成です。その上で、ヒトの生命科学をも内包する多摩川研究活動を創造したいと考えます。

一般研究

住民の目で見つづけた多摩川の35年

蓄積した写真資料等による多摩川の
自然環境の変遷を解明する研究



柴田 隆行 (しばた たかゆき)

東洋大学 社会学部 教授
多摩川の自然を守る会 代表

共同研究者

- 森田 英代 ナチュラリスト
- 鈴木 有子 図書館補助員

私たち研究員が所属する多摩川の自然を守る会は、1970年結成の、ふつうの住民・市民の団体です。「ふつう」とあえて言うのは、専門の学者でも野鳥・昆虫等の愛好家でもないという意味であり、子どもから老人、会社員や主婦、教員等々いろいろなひとがただ多摩川の自然を大切にしたいという思いだけで集まって活動を続けている団体だからです。したがって、集めるデータも非科学的なものにすぎませんが、しかし、「継続は力」であり、また、主観的だからこそそれぞれの時代の市民意識がわかる利点があります。

今回の研究は、これまで撮り続けた膨大な写真、芸術写真ではなく、多摩川の光景や自然を闇雲に撮った膨大な写真を分析し、そこから多摩川の自然の変遷を具体的かつ視覚的に明らかにして、河川改修での環境保護や、自然復元、自然調査等に有効な資料を提供することをねらいとしています。

「みんなでつくる水循環市民プラン」市民による市民参加型調査



佐藤 節子 (さとう せつこ)

NPO法人 国立市動物調査会役員
(くにたち水の水の市民調査会 代表)

共同研究者

- 高山 俊昭 元大学教授
- 山本 修太 会社員
- 野村 正福 会社員
- 丸本 大 会社役員
- 金田一優子 元教員
- 澤田 紘子 環境学習リーダー
- 谷口 純一 教員
- 笠間 信也 元高校教諭
- 矢野きく子 主婦
- 黒瀬総一郎 大学院生

さまざまな市民が自主的に集まり、幅広い観点から自分たちのまちの水環境を調査することにより、行政の立場から見たものと違う「水循環の大切さ」が見えてくる。

昔の市民の暮らしと、今の暮らしの違いが、聞き取りや井戸調査、水辺環境調査などから浮かび上がる。失ったものを取り戻し、残ったものを保全する必要性も、こうした現状認識を市民自らが参加して調査する中でこそ感じることができる。その中で水循環を細やかな日常生活に生かす提案も生まれてくる。

子どもたちにも学校のプール調査や多摩川探検などを通し、自らが調査に加わる機会をつくる。遊びを取り入れ楽しく調査することで得た体験は、未来につなぐ架け橋という期待を込めている。

本調査を整理、解析して得たものは、国立市水循環基本計画へ反映させるとともに、市民へ水のある暮らしの大切さが再認識できるような働きかけをしていきたい。

多摩川河床に見られる下部更新統上総層群の長鼻類・偶蹄類足跡化石群の分布調査及び足跡化石群の露出から消滅までの経過と保存の検討



福嶋 徹 (ふくしま とおる)
GeoWonder 企画 むさしの化石塾 代表
(武蔵村山市議会議員)

共同研究者
向山 崇久 東京都立上野高等学校 教諭
羽鳥 謙三 理学博士 共愛学園短期大学名誉教授
松田 隆夫 府中市教育委員会
増淵 和夫 川崎市教育委員会
百原 新 理学博士 千葉大助教授
小泉 明裕 飯田市美術博物館
むさしの化石塾 生徒一同

近年関東を通過する大型台風で多摩川が大きく削られ、既存地形が全く変化してしまうことが見られるようになりました。多摩川中流域の河床に露出する陸域の地層からは、軟体動物や哺乳類などの化石がたくさんみつかっています。この河床面が洗われ、アケボノソウやカズサジカ、鳥類などの足跡化石の発見があいつぎました。足跡化石包含層が広い面で露出する機会に恵まれるようになり、発見のチャンス到来です。しかしながら、約180万年もの長い歳月を経て、地中に保存されてきた足跡化石も、地表に露出し、その姿を現した瞬間から消滅破壊の危機に立たされます。例えと一瞬に蒸発する水滴のようなものです。地質時代から残ってきた足跡化石は、雨や日照り河川の流れなど自然侵食により風化消滅まで、約1ヶ月足らずで消えてしまいます。意識して観察し保存する対応を考えないと、貴重なデータは永遠に消えてしまいます。把握できた露頭の一部でも、その記録の保存に勤め今回の調査研究を通して自然科学情報を未来に少しでも継承できれば幸いです。

地域の食生活を支えた水車の技術 野川を中心に



小坂 克信 (こさか かつのぶ)
日野市立日野第四小学校 教諭

鳥インフルエンザや狂牛病など、食の安全が問題になっている。これに関連し、地元で生産された食品を使い、小規模生産者を守ると同時に、伝統的な食文化を見直そうという動きがある。この食の中心の穀類は、どのように調整されてきたのであろうか。この伝統的な技術は、水のもつ自然エネルギーを利用して米や麦の精白・製粉を行ってきた水車に見られる。この技術がどのようなものであったか、野川の水を利用した三鷹市大沢の新車(しんぐるま)という水車(東京都有形民俗文化財)を中心に見ていく。調査・研究の目的は、次の3点になる。

水車は穀類の精白・製粉を行い、地域の食生活を支えてきたことから、身近な存在であったと考えられる。野川流域には、水車が多く存在したことは知られているが、どこに水車が何台あったのか、時期や規模などはわかっていない。そこで、野川流域の水車の悉皆調査を行う。

新車を中心に、主食の精選を支えてきた水車の技術を明らかにする。つまり、伝統的な杵や搗き臼(穀類の精白)や挽き臼(製粉)と近代的な機械(精米機や製粉機)について調査する。

経営資料をもとに、水車で精選した米や麦の量を明らかにし、水車が地域に果たした役割を明らかにする。特に、押し麦機の導入によって、地域の食生活が変化したことは知られているが、それがどの程度であったのかを明らかにしたい。

玉川上水におけるカメ類の分布と個体群構造調査



佐藤 方博 (さとう まさひろ)
特定非営利活動法人 生態工房 理事
共同研究者
増永 望美 生態工房 事務局長
片岡 友美 生態工房 外来種担当
澁谷 千尋 生態工房 外来種担当
藤浦あや子 生態工房
長澤 越子 生態工房

当会では東京都の武蔵野台地東部においてカメ類調査を行い、在来カメ類の生息や外来カメ類の定着に関する知見の集積に努めてきました。しかし、これまでに調査を行った水域はすべて池であり、河川等の流水域については既往研究もありません。本研究によって当地域の流水域におけるカメ類の分布が明らかになることが期待されます。

河川や水路はカメ類のすみかであると同時に移動経路でもあります。玉川上水のような堰や暗渠で分断されていない水路では、在来カメ類が流れを通じて上下流へと移動することにより、メタ個体群間で遺伝的な交流が促されて地域個体群が存続していると考えられます。一方、遺棄されて侵入した外来種は水路を通じて拡散することが危惧されます。とりわけ玉川上水はカミツキガメの繁殖が確認された国内2例目の場所であり、本種が拡散する前に野外から回収することが強く望まれます。本研究によりカメ類の分布の把握を進めると同時に、得られた外来種については駆除を兼ねた解剖を行い、繁殖状況を把握して駆除対策に役立てたいと考えています。

< 継続助成研究 >**学術研究**

多摩川河川水に含まれる内分泌攪乱物質の水生植物による吸収・分解機構に関する研究

池田 駿介 (いけだ しゅんすけ)
東京工業大学大学院 理工学研究所 教授

多摩川河口干潟における硝化・脱窒に関する研究

浦川 秀敏 (うらかわ ひでとし)
東京大学海洋研究所先端海洋システム研究センター 助教授

多摩川流域における窒素循環の把握および地目連鎖による浄化能の解析

木村 園子ドロテア (きむら そのこ どりてあ)
東京農工大学大学院 共生科学技術研究部 助手

粒状有機物から見た多摩川の生態学的連続性の評価

古米 弘明 (ふるまい ひろあき)
東京大学大学院 工学系研究科 教授

多摩川の植生と植生図 - 30年間の変化

中村 幸人 (なかむら ゆきと)
東京農業大学 森林総合科学科 教授

多摩川源流・鶴川地域の伝統的畑作農耕をめぐる生物文化多様性の保全

木俣 美樹男 (きまた みきお)
東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授

一般研究

東京都下多摩川水系およびその流域における昆虫相と分布の変遷(1)

須田 孫七 (すだ まごしち)
東京大学総合研究博物館 協力研究員

地域通貨を用いた多摩川源流域における環境機能の向上に関する研究

吉田 徳久 (よしだ とくひさ)
早稲田大学 環境総合研究センター 教授

近世・多摩川における河川氾濫と下流域農村に関する歴史人口学的分析 平川家文書からみた荏原郡・六郷領・下丸子村

林 和光 (はやし かずみつ)
財団法人 道路交通情報通信システムセンター 次長

多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境復元

比田井 民子 (ひた い たみこ)
東京都埋蔵文化財センター 課長補佐

- 研究助成成果報告書収録の研究 -

学術研究第34巻9件および一般研究第27巻9件の研究助成成果報告書が完成し、8月10日から多摩川流域の大学、図書館や教育委員会等に贈呈いたしましたので併せて各巻収録の課題と研究者名をご紹介します。

学術研究

多摩川源流域の山岳信仰と自然保護に関する調査研究

長野 覺 (ながの ただし)
元・駒澤大学 文学部 教授

多摩川底質中の硫酸還元菌による硫化鉄化合物生成と悪臭低減に関する研究

松尾 基之 (まつお もとゆき)
東京大学大学院 総合文化研究科 助教授

多摩川河川敷におけるマツヨイグサ属植物の交替現象について - 植物相の変化の要因と影響の解明 -

倉本 宣 (くらもと のぼる)
明治大学 農学部 助教授

多摩川水系の貝類からみたクリプトスポリジウム汚染実態と感染防止対策に関する調査・実験研究

笹原 武志 (ささはら たけし)
北里大学医学部微生物・寄生虫学講師

多摩川水系の底質におけるポリクロロジベンゾチオフェンの分布及びその残留性の評価

中井 智司 (なかい さとし)
東京農工大学大学院 共生科学技術研究部 講師

多摩川水系における底生動物と水文・水理特性の影響に関する研究

土屋 十囀 (つちや みつくに)
前橋工科大学 工学部 教授

多摩川の河川敷環境がコリドーとして山間部と市街地に孤立したアカネズミ個体群をつないでいる可能性に関する保全遺伝生態学的研究

小原 嘉明 (おばら よしあき)
東京農工大学 農学部 教授

多摩川及び東京湾から外洋域における難分解性有機汚染物質の分布と運命予測

藤原 祺多夫 (ふじわら きたお)
東京薬科大学 生命科学部 教授

多摩川の水質環境の変化に対応した新たな微生物・化学指標による現状把握と指標評価

小堀 洋美 (こぼり ひろみ)
武蔵工業大学 環境情報学部 教授

一般研究

多摩川河口干潟におけるトビハゼの生息環境に関する調査研究 - 泥質干潟との関連性について

五明 美智男 (ごみょう みちお)
特定非営利活動法人 海辺つくり研究会 理事

秋川上流域におけるナガレタゴガエルの生命表の作成及び水位と流下行動の相関関係について

三輪 時男 (みわ ときお)
元、東京農工大学大学院 農学研究科 研究生

多摩川源流部の沢・尾根・淵・滝・小字等の地名と由来に関する調査研究 奥多摩編

中村 文明 (なかむら ぶんめい)
多摩川源流研究所 所長

多摩川流域の都市公園におけるトンボ相に関する調査

山内 唯志 (やまうち ただし)
戸山生物研究会 代表

多摩川上流域における開発と水害

増淵 和夫 (ますぶち かずお)
川崎市博物館振興財団 日本民家園 学芸員

浅川産ハチオウジソウを使った体験学習のための基礎的研究と実践

馬場 勝良 (ばば かつよし)
慶應義塾幼稚舎 教諭

武蔵野台地南部の水利用・水配分に関する教材化のための基礎研究

小坂 克信 (こさか かつのぶ)
八王子市立第八小学校 教諭

多摩川源流地域における狩猟文化史に関する研究

井村 礼恵 (いむら ひろえ)
東京農工大学連合大学 博士課程

多摩川河床に発達する“牛群地形”の形成と保護に関する研究

徳竹 真人 (とくたけ まひと)
環境地盤研究所 職員

3 第12回助成研究ワークショップ

本年度のワークショップは12回目となる開催で、「身近な水環境を生き物の視点から考える 多摩川からの報告」というテーマの下、約80名の参加者を迎え、去る7月25日、例年通り国連大学の会議場で開かれました。

まず、多摩川上流域の主な支流のひとつである秋川での永年にわたるカエルの研究の報告です。研究者の三輪さんは、1991年から研究を開始し、途中の中断を除いても10年近くナガレタゴガエルの回帰移動行動の解明とカエルの生息地や個体群の保全についての研究をしてきました。ナガレタゴガエルは希少種であるとの風評は正しくなく、日本のカエルの中でも生息数はかなり多い部類に入る 流下移動、冬眠、産卵、春眠など多くの行動を水中で行うため、半年は水中生活を送る 同一個体群の生息域と繁殖活動は長距離(数百m~数km)に及ぶ 回帰移動も、かなり長距離(平均1.5km)に及ぶ 通説に反し、生誕地に帰らない、分散移動する個体も30%近くいる

オスとメスの包接期間や産卵にかかる時間が他種のカエルに比べて異常に長い(難産)、などの生態上の特徴が報告されました。ついで、こうした特徴から、林道造成や木材切り出し等による降雨時の土砂・砂礫の流出が溪流相を変えてしまうことが、ナガレタゴガエルの個体数に壊滅的なダメージを与えていること、溪流相が安定すると個体数の回復が見られることなどから、ナガレタゴガエルは森林内源流域生態系の保全上の有力な指標のひとつであることが報告されました。

ついで、田口さんから、「南浅川流域のヒガシカワトンボ生活史にみられる気候温暖化の影響について」の報告がありました。田口さんが教鞭をとられたいくつかの神奈川県立高校の生徒さんの共同研究として指導された成果でもあります。南浅川と水系は違うもののその近くにある穴川とで調査を積上げられた結果、この種のトンボは二年一化性であるが、その事実を多くの例で実証 浅川や穴川はヒガシカワトンボの生息域南限に位置するが、一年一化性の存在を発見 2種の化性の分布や混在具合から、昆虫が成虫になるのに必要な有効積算温度に従来と違った変化が見られ、その要因が気候温暖化にあることなどを結論付けられました。

三番目に、NPO法人海づくり研究会理事の五明さんが、多摩川河口の干潟で調査されたトビハゼについて報告されました。干潟にあるヨシを始めとする汽水性植物群落は、生態系にとって非常に重要な存在であることは周知のことですが、そのことをトビハ

ぜをとおして検証してみようというのが、調査の本来の目的ということでした。同じ東京湾内の江戸川放水路干潟に比べ多摩川の河口干潟には3倍の密度でトビハゼが生息していること、トビハゼの巣穴の形状にもいくつかのタイプがあることなど、興味深いお話も戴きました。これまでの調査研究の結果、トビハゼにとって住み良い干潟の条件が、保水性のよい泥のあること ヨシなどの汽水性植物群落のあること 塩分が適当にあること などであることを解明されました。干潟が生き物たちにとってやはり大切な場所であるという生き物たちからのメッセージも受取ることが出来ました。

四番目は、「東京都の湧水等に出現する地下水生生物の調査」と題した、篠田さんからの報告です。これまでには例が少ない分野の研究です。メクラヨコエビ属やコジマチカヨコエビなどの数種の地下水生甲殻類と外来種のフロリダマミズヨコエビの在・不在を調査した結果、彼らは水温15~20、電気伝導度15~30ms/mの、いわゆる水質の良好な湧水に多く存在していること メクラヨコエビ属には水量が多いことが必要条件ではないこと ヨコエビ類は一度個体数が減少するとその回復に時間がかかること 地下水生生物は珍しい生き物なのではなく、生息条件さえ揃えばどのような湧水にも出現するものであること

を前提にすれば、これらが出現しない湧水には何か問題があると見ることができ、その意味で地下水生生物の在・不在はその水域の環境のひとつの指標となること、などが指摘されました。

これらの報告を総括して、コメンテーターの小倉農工大名誉教授から、「これらの小さな生き物たちが様々なメッセージを送ってくれていることを我々は真剣に受け止め、メッセージに基づいて仮説を立て、調査研究を積上げて、それぞれの仮説を検証する必要があります。トンボの生活史に温暖化の影響が示唆されましたが、湧水の水温と気温の相関関係も実証されており、水温は生態系には極めて重要なファクターです。水温を含め、小さな生き物達が生息するのに必要な条件を満たしてやるのが大切で、言葉の話しえない彼らに代わってそれをやってやるのが、私達人間の責務であるはずで、このまま行けば、地球温暖化によって小さい生き物たちの個体数は間違いなく減って行くでしょう。大学など専門職による調査研究にも限界がありますので、高校生や市民の皆さんの参加を求めたい。」とのお話がありました。

第12回 助成研究ワークショップ プログラム			
13:00	開会挨拶	とうきゅう環境浄化財団 理事長	五島 哲
13:20	報告1	「秋川上流域におけるナガレタゴガエルの生態学・発生学的研究と棲息環境の保全について」1998年～2001年助成 「秋川上流域におけるナガレタゴガエルの生命表の作成および水位と流下行動の相関関係について」2002年～2004年助成 東京学芸大学大学院環境教育教室 研究生	三輪 時男
13:35	報告2	「南浅川流域のヒガシカワトンボ生活史にみられる気候温暖化の影響」 2003年～2004年助成 神奈川県立津久井高等学校 教頭	田口 正男
13:50	報告3	「多摩川河口干潟におけるトビハゼの生息環境に関する調査研究 泥質干潟形成との関連性について」2002年～2004年助成 海辺つくり研究会 理事	五明美智男
14:05	報告4	「東京都の湧水等に出現する地下水生生物の調査」 2004年～2006年助成 地域自然財産研究所 代表	篠田 授樹
14:20	コメント	コメンテーター 東京農工大学 名誉教授	小倉 紀雄
14:30	休憩	(15分)	
14:45	総合討論会	コメンテーター コーディネーター 東京農工大学 名誉教授 とうきゅう環境浄化財団 常務理事	小倉 紀雄 長井 弘道
16:30	閉会		

4 主な環境関係財団による河川、湧水、水循環などに関わる最近の助成研究一覧

(2006年)

国内の主な環境財団(独立行政法人、社団法人、公益信託等を含む)が助成(活動助成を含む)した研究課題の中から、水源(林)、里山、湧水、地下水、水循環、用水などに関わるものを選んで、取りまとめました。各法人名は「(財)公益法人協会(<http://www.kohokyo.or.jp/>)」、「(財)助成財団センター(<http://www.jfc.or.jp/>)」のホームページ並びにYahooより検索しました。

また、その各法人の2007年1月時点でのホームページに公開されている中で、多摩川とその流域を中心に首都圏の主要な河川の環境保全のための調査や研究に携わる方々に参考となるとと思われるものを、当財団で任意に選択したものです。

研究課題	研究者	所属	助成法人
河川の物理環境が水質や河川生態系の構造に及ぼす影響	風間ふたば	山梨大学大学院・助教授	河川環境管理財団
森林流域の水源涵養・保水機能と水質浄化機能の定量的評価に関する研究	土屋 十囀	前橋工科大学工学部	河川環境管理財団
水循環保全農業の経済的・社会的成立条件の解明	木下 幸雄	東京大学大学院農学生命科学研究科	河川環境管理財団
自然再生の実践を促進する山・里・川・海の交流事業	内山 節	自然再生を推進する市民団体連絡会	河川環境管理財団
河川環境保護との連携による雨水貯留浸透の広報啓蒙活動	屋井 裕幸	(社)雨水貯留浸透技術協会	河川環境管理財団
多摩川源流と中下流連携・交流事業と多摩川源流大学モデル事業	中村 文明	多摩川源流研究所所長	河川環境管理財団
温暖化による雨水・着氷現象の激増予測手法の確立と積雪量に及ぼす影響評価	西尾 文彦	千葉大学・教授	日本生命財団
森林の人為的変化がハリギリにおける遺伝的多様性、病菌の伝搬性に与える影響の評価	竹内 やよい	総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員	日本生命財団
森林が沿岸環境に及ぼす評価手法の作成	(社)海と渚環境美化推進機構		環境再生保全機構

研究課題	所属	助成法人
野生動物との共存を図るための自然林・二次林・人工林の価値評価にかかわる研究	(財)科学教育研究会	環境再生保全機構
間伐材利用による森林保全と温暖化防止事業	(特)環境デザイン・アソシエイツ	環境再生保全機構
環太平洋の森林保全に資する木造建築を全国に普及するための啓発事業	(財)地球・人間環境フォーラム	環境再生保全機構
水源レンジャーの育成による住民参加型流域管理に向けたモデル作り	(特)都市環境研究会	環境再生保全機構
環境学習プログラム「森の環境調査隊」の作成と普及	(社)日本環境教育フォーラム	環境再生保全機構
緑化による安全の道づくり・まちづくり ~ 一都三県の安全緑地ネットワークづくり	(特)日本公開庭園機構	環境再生保全機構
NPO・市民による持続可能な森林保全・整備活動推進のための調査・計画手法および実践技術の普及啓発事業	(特)森づくりフォーラム	環境再生保全機構
水循環型社会を次世代に語り継ぐフォーラム	流域の水循環型社会をすすめる会	環境再生保全機構
「森の教室」の指導者養成講座	(特)国分寺市にふるさとをつくる会	国土緑化推進機構
温暖化防止等と森林に関するシンポジウム	(社)産業と環境の会	国土緑化推進機構
これからの森林施業を考える～長伐期施業の検証	日本林業経営者協会	国土緑化推進機構
森林に間伐と水源かん養機能QアンドAの作成	森林の間伐が水源かん養機能に及ぼす影響調査検討会	国土緑化推進機構
文化遺産を核として森とコミュニティのあり方を考える	文化遺産を未来につなぐ森づくりの為に有識者会議	国土緑化推進機構
「高齢者が取り組む森林づくり」促進シンポジウム	高齢社会NGO連携協議会	国土緑化推進機構
水源地域等林道沿線森林美化普及啓発活動	(社)林道安全協会	国土緑化推進機構
高尾の山(東京の水源林)での炭撒きによる樹勢回復	明星大学	国土緑化推進機構
森林の有する公益機能の評価・啓発事業	(社)日本治山治水協会	国土緑化推進機構
貯水池周辺森林の崩壊防止に関する調査研究	(社)電力土木技術協会	国土緑化推進機構
山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究	(財)林政総合調査研究所	国土緑化推進機構
持続的な地域資源管理システムの類型化 - Savas 図式による分析 -	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻林政学研究室	国土緑化推進機構
山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査	山菜文化研究会	国土緑化推進機構
森林整備の発注方式改革が地域経済・森林管理に与える影響に関する調査研究	(財)林業経済研究所	国土緑化推進機構
山林再生・山林資源の市場成立要件の調査と森林資源利活用目標モデルの作成および国民的啓発展開	NPO法人自然環境復元協会	国土緑化推進機構
母樹の保全に関する調査と提言(源流塾・源流百年の森づくり)	多摩川源流研究所	国土緑化推進機構
荒廃した谷戸田・谷戸山の景観を保全・復元し、「蛍の里」づくりを行う	里山の環境保全を实践学習する会	セブンイレブンみどりの基金
特定植物群落ハンノキ林をフィールドとした里山保全と市民レンジャーの育成	NPO 法人エヌピーオー・フュージョン長池	セブンイレブンみどりの基金

研究課題	所属	助成法人
多摩川の自然体験活動「せたがや水辺の楽校」	せたがや水辺の楽校連絡会	セブンイレブンみどりの基金
小菅村エコミュージアム構想の一環としてのキャンプ形式の体験学習、指導者養成など	NPO 法人自然文化誌研究会	セブンイレブンみどりの基金
井戸・湧水に関する環境マップ「昭島環境マップ (vol.2)」の作成および発行	昭島環境フォーラム	セブンイレブンみどりの基金
森の手入れと炭焼きを行い、炭を土壌改良に活用して里山の循環をつくる活動	NPO 法人 FoE Japan	セブンイレブンみどりの基金
多摩動物公園での里山保全及び普及活動	多摩丘陵の里山保全活動グループ	日野自動車グリーンファンド
次代を考え小学生の「緑の環境教育」に寄与	多摩さくら百年物語フォーラム	日野自動車グリーンファンド
「川に学ぶ」活動助成(野川)2005年度	せたがや野川の会	リバーフロント整備センター
「川に学ぶ」活動助成(野川)2005年度	喜多見ボンボコ会議	リバーフロント整備センター
「川に学ぶ」活動助成(多摩川)2005年度	NPO 法人多摩川環境研究会	リバーフロント整備センター
ピオトープの観察・維持活動ならびに第2のピオトープ造成	小平市立小平第六小学校	(社)日本旅行業協会 JATA環境基金

上記の掲載法人の URL 並びに上記に掲載はしていませんが、環境に関する調査・研究助成(活動助成含む)を行っている法人の URL をご紹介します。

環境に関する助成(活動助成含む)法人名(掲載法人)	U R L
(財)河川環境管理財団	http://www.kasen.or.jp/
(財)リバーフロント整備センター	http://www.rfc.or.jp/
(財)日本生命財団	http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/
(独立行政法人)環境再生保全機構	http://www.erca.go.jp/
(社)国土緑化推進機構	http://www.green.or.jp/
(財)日野自動車グリーンファンド	http://www.hino.co.jp/j/corporate/newsrelease/pressrelease/detail.php?id=33
(社)日本旅行業協会 JATA環境基金	http://www.jata-net.or.jp/osusume/eco/
セブン-イレブンみどりの基金	http://www.7midori.org/midori/
(未掲載法人)	
(財)地球環境財団	http://earthian.org/foundation/
(財)イオン環境財団	http://www.aeon.info/ef/
(財)自然保護助成基金	http://www1.biz.biglobe.ne.jp/pronat/
(財)都市緑化基金	http://www.urban-green.or.jp/
(財)長尾自然環境財団	http://www.jwrc.or.jp/NEF/
(財)損保ジャパン環境財団	http://www.sjef.org/
(財)日立環境財団	http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/index.html
(財)サイサン環境保全基金	http://www.h2.dion.ne.jp/saisanec/
(財)日本科学協会	http://www.jss.or.jp/about/index.html
(財)日本財団	http://www.nippon-foundation.or.jp/
(財)トヨタ財団	http://www.toyotafound.or.jp/
(財)ハウジングアンドコミュニティ財団	http://www.hc-zaidan.or.jp/topmenu.html
(財)昭和シェル石油環境研究助成財団	http://www.showa-shell.co.jp/society/philanthropy/foundation/
(財)鉄鋼業環境保全技術開発基金	http://www8.ocn.ne.jp/sept/
(財)クリタ・水・環境科学振興財団	http://www.kwef.or.jp/
WWF・日興グリーンインベスターズ基金	http://www.wwf.or.jp/activity/enetwork/gifund/index.htm
アムウェイ・ネチャーセンター環境基金	http://www.nature-center.org/
日本経団連自然保護協議会	http://www.keidanren.or.jp/kncf/
(公益信託)富士フィルム・グリーンファンド	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/socialcontribution/greenfund/
(公益信託)TaKaRaハーモニストファンド	http://www.takarashuzo.co.jp/
(公益信託)むさしの緑の基金	http://www2.musashinobank.co.jp/company/socially/environment/index.html

順不同

5 2006年の多摩川関連の主な新聞記事

1月	14日	朝日	多摩地域9市長サミット - 緑・水保全の道を探る
	15日	朝日	狛江の市民が万葉集・東歌の玉川碑を保全へ
	20日	神奈川	川崎市長が多摩川河口の保護で県に意見書提出
	24日	朝日・ 毎日	考えよう！ 多摩の地下水 現在と未来 - 市民グループが昭島市でシンポジウムを開催
	25日	朝日	都、漁協が協力 - 江戸前アユの復活大作戦
2月	2日	読賣(夕)	多摩川河口でアサクサノリの自生群落が見つかる
	3日	読賣	疎水百選に都内の府中用水が選出される
	5日	神奈川	絶滅危惧種・アサクサノリの現地観察会を開催
	10日	毎日	中央区が奥多摩の民有林の保護を支援
	22日	読賣	多摩川中流域では総額70億円の大手術を実施中
	24日	読賣・毎 日・朝日	圏央道訴訟で住民側が逆転敗訴 - 公共の利益が環境への影響より大と判断
	27日	神奈川	川崎の名所・生田緑地が荒れ放題
3月	3日	読賣	玉川上水沿いの1000本の小金井桜を都が保存へ
	9日	神奈川	水質改善か - 多摩川河口の多摩運河で稚アユを発見
	12日	神奈川	多摩運河に戻りつつある豊かな自然 - 稚アユ生息
	16日	朝日 読賣	疎水百選に府中用水 - 都内で唯一の認定 農地面積の維持を目指し日野市が応援チーム創設
	17日	朝日・ 読賣 読賣	八王子城跡トンネル工事で止水対策チームを設置 - 国交省が相武国道事務所内に 2005年の多摩川水系水質調査結果を発表
	22日	朝日	井の頭池再生に地下水復活のシンポジウムを開催
	24日	読賣	国立・谷保に緑保全サポートサイン1号を設置
	31日	東京・読 賣・毎日 ・朝日	国立高層マンション訴訟 - 景観利益を最高裁が初認定 - 建設の違法性は否定
4月	4日	神奈川	多摩川支流・平瀬川をペンキで汚染した男を逮捕
	11日	神奈川	川崎市が多摩川河口干潟での生物環境調査結果を発表
	12日	神奈川	川崎市が「多摩川プラン」の方向性を発表
	13日	神奈川	水質改善か - マルタウグイが多摩川を大量に遡上
	15日	読賣 読賣	民有地水源林保全ボランティアに都が技術指導 たま散歩 - 多摩川・玉川上水遊歩道 - 新緑に輝く川面
	17日	朝日	国立市が節水を訴え雨水タンクを庁舎内に設置
	20日	東京・ 毎日	「花粉の少ない森づくり運動」がスタート - 多摩産材の利用促進でシンポジウム
	21日	朝日	シカ捕獲の猟師の足として、3基のモノレールを敷設
	22日	毎日	炭の粉まき樹木を再生 - 松の立ち枯れ進む高尾山で
	24日	毎日(夕) 毎日	シリーズ - 奥多摩湖 - 首都の片隅で消える集落 シカ食害対策用モノレール完成 - 造林、山火事にも使用
		神奈川	多摩川河口干潟 - 水質改善さらなるものに
	26日	東京	奥多摩町でモノレール完成 - 捕獲したシカの運搬に
	27日	毎日(夕)	シリーズ - 奥多摩湖 - ダムに怒り、ダムで潤い
	28日	毎日(夕)	シリーズ - 奥多摩湖 - 年に一度よみがえる村

5月	1日	朝日	調布市内の多摩川の堰でアユの遡上を手助け
	2日	毎日(夕)	シリーズ-奥多摩湖 - 集落 新たな息吹
	7日	読賣	たま散歩-国分寺崖線 - 道や公園 歴史の風情
		読賣	青梅・多摩川水辺のフォーラム発足 - 水辺の楽校開設を
	10日	神奈川	俳優の中本賢さんが小学生に多摩川の魅力を教授
	11日	読賣	シカ駆除へモノレール発車 - 奥多摩にモノレール
		読賣	蛍の乱舞を夢見て立川市内昭和用水で環境を改善
	13日	朝日	あきる野市の里山保全地域で活動が本格化
		読賣(夕)	川崎市は緑地保存に向け、相続税全額免除を提案へ
	14日	読賣	青梅市の多摩川河川敷で親子揃ってアユを放流
	16日	神奈川	川崎市中原区の多摩川河川敷で魚の学習会を開催
	17日	朝日	高尾の環境を炭で守れ - 松枯れ対策に酸性土を中性化
		読賣	松原村が最高50万円を交付 - 地場産材木利用促進に
	18日	神奈川	川崎市宮前区が菅生緑地の紹介リーフレットを作成
		読賣(夕)	川崎市は緑地保存に向け、相続税全額免除を提案へ
	14日	読賣	青梅市の多摩川河川敷で親子揃ってアユを放流
	16日	神奈川	川崎市中原区の多摩川河川敷で魚の学習会を開催
	17日	朝日	高尾の環境を炭で守れ - 松枯れ対策に酸性土を中性化
		読賣	松原村が最高50万円を交付 - 地場産材木利用促進に
	18日	神奈川	川崎市宮前区が菅生緑地の紹介リーフレットを作成
6月	1日	読賣	シカ食害による土砂崩落 - 川苔山などで復旧工事進む
	2日	読賣	国立の大学通りが都市景観大賞の優秀賞を受賞
		読賣	日野市が清流条例を見直し - 湧水などの保全を視野に
	4日	読賣	約30人がカワラノギクの保全で永田橋周辺河川敷を清掃
	5日	東京	奥多摩でアユ解禁 - 多摩川上流が18日、秋川が11日
	6日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 市民つなぎ全国調査
	7日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 主婦らと起こした波
		朝日	ホタル舞い(深大寺)、カワセミ躍動(浅川、湯殿川)
	8日	毎日	「国立の大学通り」が「美しいまちなみ優秀賞」を受賞
		朝日(夕)	お山の中行くモノレール-シカ捕獲作戦始まる
		朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - こだわり貫いた「一斉」
	9日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 簡単機材 市民も参加
	12日	朝日	国交省が空港再拡張で多摩川河口沖の埋め立て申請
	14日	読賣	都教委が学校の備品に多摩産木材使用規格を策定
		朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 保全めざし条例改正案
	15日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - わが街用水路から知る
	16日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 農家助けて風景守る
	17日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 川遊び復活にかける
	20日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 復活した野川に異変
	21日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 調査途上 川底あらわ
	22日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 潤いの量、数値固めず
	23日	読賣	青梅水辺の楽校創設に向け市民集会を開催
		朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 生き物の命 池で守る
	24日	読賣	玉川上水でコイヘルペス感染の鯉を確認
		朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - きらめく夏待ち望む
	27日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 浸透ますで地に戻す
	28日	毎日	調布市の野川で特定外来生物のカミツキガメを捕獲
		読賣	NPO「生態工房」が玉川上水でカミツキガメの駆除
		朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 高架見つめて活用策

29日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 街のタンクでアピール
30日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 流出、地中浸透と同量
7月 1日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 気化熱生かし「涼の家」
3日	神奈川	多摩川支流の平瀬川で竹炭使って水質浄化 - 川崎宮前区
4日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 消えた「川辺の主役」
	読賣	たま散歩 - 矢川周辺 - 豊かな水の恵み
5日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 全国初の住民参加型
6日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 川の営み支える「礎」
7日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 自生めざし忍耐の日々
8日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 保全手法の模索続く
9日	東京	地下水は自然の命の柱 - 高尾山の自然をまもる市民の会
12日	朝日	里山再生作業参加者募集 - あきる野・横沢入地区
17日	朝日・ 読賣	狛江古代カップ多摩川いかだレース - 一都五県から 99 チームが参加し、速さと企画を争う
28日	神奈川	多摩川などでも高濃度の抗生物質、薬品汚染 - 全国調査で
8月 8日	毎日	松原村の若者が新会社 - 梓にとらわれず「山仕事」引き受け
9日	読賣	水都再生 2 - 見直される都会の地下水（井の頭池で怪現象）
17日	朝日	井の頭池に豊かな水量を - 来月、シンボ第 2 弾
21日	朝日	地域に生きて・源流 - 研究所作り情報発信 - 多摩川源流研究所
23日	毎日(夕)	明治大学付属校用地で大規模な遺跡調査進む - 野川遺跡近くで
24日	神奈川	二ヶ領用水をきれいに - 子供たちが研究発表会
25日	朝日	多摩地域の二つの中学校生が多摩川をカヌーで下る計画
9月 9日	読賣	八王子城跡の滝枯れは圏央道工事が原因 - 八王子市長が言及
10日	読賣	雨で流れ出す土砂、濁る沢 - 奥多摩で増えるシカ、広がる食害
12日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 「博士と名人」潤す味
13日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 目指すは「がぶ飲み」
14日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 高品質へ独自の基準
15日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 水質変化 データで実証
16日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 届けるプロ意識伝承
20日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 宝の井戸から全世帯へ
21日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 水がめの上に浮かぶ街
22日	読賣 朝日	犯人は「捨てウサギ」? - 絶滅危惧種キンランがピンチ シリーズ「多摩水と人と」 - グラス片手に水談義
23日	読賣・ 神奈川	国交省が全国の河川を調査 - ワースト 3 は、常連の大和川、鶴見川、綾瀬川
	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 高めたい「守る」意識
25日	読賣	「山林よ育て」 - 奥多摩・昭島市民の森で雑草刈り
26日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - ビールに命吹き込む
27日	神奈川	羽田空港の神奈川口構想で、県と川崎市が多摩川河口への配慮約束
	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 黒字へこだわり突る
28日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 「共生」浸透に手応え
29日	朝日	中学生ら、多摩川下りに挑む 親子カヌー奮闘記
	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 仕込み以外は節水徹底
30日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 次世代へと受け継ぐ
10月 3日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 豊かな恵み 銘酒磨く
4日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 自然に学び木桶仕込み

5日	朝日 神奈川	シリーズ「多摩水と人と」 - 明治のビールを復活 川崎市最大の緑地・生田緑地を自然豊かなものに
6日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 井戸洗い 杜氏の誇り
7日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 蔵元の努力 ずっしり
11日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 流域交流 森を訪ねて
12日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 子供の個性輝く「教室」
13日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 森を育て都会に建物を
14日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 地域再生 大学が知恵
20日	東京	「中央区の森」誕生 - 温暖化防止助成で桧原村と協定
24日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 癒しの湯 住民が復活
25日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 先人が託した宝の水
26日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 村の記憶伝える語り部
27日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 新施設建設へ光射す
28日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 沈んだ村 いまを問う
31日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 守り続けた清水の証し
11月 1日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 息づく命一斉に調査
2日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 集団小規模 募る危機感
	読賣	青梅市や奥多摩町で大切な森を守る - 青梅りんけん
3日	毎日	羽村の多摩川河川敷でカワラノギクが見ごろ
	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 汗流し守っていく場所
7日	神奈川	川崎の小学生たちが干潟の四季を観察 - 多摩川河口
8日	読賣	福生市内・多摩川沿いの250本のソメイヨシノを健康診断
9日	神奈川	多摩川のスーパー堤防予定地から基準超の有害物質
14日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 魚の視点で川づくり
15日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 溪谷の風景 魚道に反映
16日	毎日	近代遺産100選 - 多摩川下流の河川施設
	神奈川	丸子の渡しの復活を目指し、体験会を開催
	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 校内に水辺 自然学ぶ
	神奈川	多摩川などを活かした風の道づくりを研究へ - 川崎市など
17日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 投網の腕 調査で磨く
18日	朝日	シリーズ「多摩水と人と」 - 再生思い漁の技伝授
26日	朝日	多摩川河口の修道院の寄宿舎建設を源流の木材で
28日	読賣	多摩の26市長が広域連携を提言 - 多摩川条例の制定など
29日	神奈川	川崎市が市民と多摩川のための「多摩川プラン」の方向性を決定
12月 2日	読賣	住民団体が都と立川市に玉川上水の景観保護を要請
3日	朝日	狛江水辺の楽校をモデルにした「実践マニュアル」を出版
5日	毎日	玉川上水沿いの高層マンション建設に住民反発
	神奈川	国交省の「手づくり郷土賞」を多摩川エコミュージアムが受賞
6日	読賣(夕)	花粉の少ない森づくりで、多摩地域のスギの伐採を開始
7日	読賣	「たまおこしの会」が多摩産木材でカレンダーを、製作、販売
13日	神奈川	多摩川をふるさとの川に位置づける「川崎市多摩川プラン」完成
16日	神奈川	都心とのアクセス向上に向け多摩川に新橋の構想 - 川崎市
22日	朝日	高尾山天狗裁判が25日に結審 - 水環境の保全が焦点
26日	朝日・東 京・毎日	圏央道高尾山天狗裁判結審 - 貴重な自然を守れと原告側が切実に最後の訴え
31日	神奈川	川崎市内の多摩川に絶滅危惧種の姿が続々 - 水質改善裏づけ

6 多摩川流域で活動しているNPO法人、任意団体等一覧

多摩川流域には環境保全等で活動している団体（NPO法人、任意団体等）が200団体以上あると言われていています。当財団で研究助成した団体、本誌（財団だより「多摩川」）を送付している団体等、当財団と関係が深いと思われる団体をご紹介します。

NPO法人・任意団体名	U R L
NPO法人 多摩川エコミュージアム	http://www.seseragikan.com/
NPO法人 海辺つくり研究会	http://homepage2.nifty.com/umibeken/
NPO法人 グリーンネックレス	http://www.green-necklace.org/
NPO法人 森づくりフォーラム	http://www.moridukuri.jp/
NPO法人 環境学習研究会	http://www.ecok.jp/
NPO法人 全国水環境交流会	http://www.mizukan.or.jp/
NPO法人 地球野外塾	http://www.k3.dion.ne.jp/t-yagai/
NPO法人 かわさき自然調査団	http://home.a03.itscom.net/nature23/
NPO法人 東京どんぐり自然学校	http://ueno.cool.ne.jp/tokyodonguri/
NPO法人 生態工房	http://www.eco-works.gr.jp/
NPO法人 自然文化史研究会	http://npo-inch1975.hp.infoseek.co.jp/
NPO法人 地域自然情報ネットワーク	http://www.boreas.dti.ne.jp/kent/gcn
(財)たましん地域文化財団	http://www.tamashin.or.jp/
(財)せたがやトラストまちづくり	http://www.setagayatm.or.jp/
(財)東京都市町村自治調査会	http://www.tama-100.or.jp/tama/
多摩川源流研究所	http://www.tamagawagenryu.net/
東京都奥多摩ビジターセンター	http://www13.ocn.ne.jp/okutamav/
多摩川流域リバーミュージアム	http://www.tamariver.net/
みずとみどり研究会	http://www.geocities.co.jp/NatureLand/3029/
多摩川と語る会	http://www.smnpo.gr.jp/npodata/kanto/kt16.html
福生水辺の楽校	http://www.city.fussa.tokyo.jp/life/environment/general/study/88vtda000001xw0.html
あきしま水辺の楽校	http://www7a.biglobe.ne.jp/akishima-mizube/
浅川潤徳水辺の楽校	http://www.tamariver.net/katsudou/katsudou_1/mizube/juntoku.htm
滝合水辺の楽校	http://www.tamariver.net/katsudou/katsudou_1/mizube/takiai.htm
府中水辺の楽校	http://www.tamariver.net/katsudou/katsudou_1/mizube/fuchu.htm
かわさき水辺の楽校	http://www.tamariver.net/katsudou/katsudou_1/mizube/kawasaki.htm
狛江水辺の楽校	http://www6.ocn.ne.jp/yamaguri/
せたがや水辺の楽校	http://quark-staff.com/setagaya-mizube/main.htm
とどろき水辺の楽校	http://www001.upp.so-net.ne.jp/motoori/mizube/top.html
多摩川癒しの会	http://home.m03.itscom.net/iyashi/
多摩川・リバーシップの会	http://river-ship.cliff.jp/
多摩川の自然を守る会	http://homepage2.nifty.com/tamagawa/
多摩川サケの会	http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/act.html
多摩川環境研究会	http://www.nposhien.net/abt/org/orgpage/d0002.shtml
ATT流域研究所	http://kankyou1.hp.infoseek.co.jp/att/
実践生物教育研究会	http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/
八王子・日野カワセミ会	http://kawasemi.fan-site.net/
西多摩自然フォーラム	http://www.ntforum.org/
ラブリバー多摩川を愛する会	http://homepage3.nifty.com/loveriver/
玉川上水ネット	http://www1.parkcity.ne.jp/tama-net/
せたがやグリーンマップ	http://sgmap.org/
京浜河川事務所・たまがわっておもしろい	http://www.tamagawa138.net/
ガサガサ水辺移動水族館	http://homepage2.nifty.com/gasagasaaqua/



「^{りゅうばみ}だに^{せいりゅう} 竜喰谷清流」

多摩川源流域は、春になると一斉に芽吹きが始まり、躍動感にあふれた季節が到来する。

暖かさが増すにつれ、若葉の色が一日と濃さを増していく。広葉樹におおわれた竜喰谷の流れは、早春の光を受けて一段と輝きを増していく。

写真・文

中村 文明

なかむら ぶんめい

多摩川源流研究所 所長
山梨県塩山市在住

▶▶ 当財団の概要

設立 1974年8月28日
 特定公益増進法人認定 (2006年11月更新)
 主務官庁 経済産業省
 基本財産 974百万円
 財源 基本財産等の運用収入並びに寄付金
 事業内容 研究助成事業
 1 研究助成 総助成件数 463件
 総助成金額 1,206百万円
 2 学習支援 など 副読本制作配布 205千部
 データブック配布 5千部
 印刷刊行物 研究助成成果報告書学術編
 研究助成成果報告書一般編
 財団だより(季刊) 3,200部
 環境副読本(毎年) 10,000部
 助成研究選考委員会委員長 高橋 裕
 東京大学名誉教授(河川工学専攻)

- [理事] 飯田 亮 セコム株式会社 取締役最高顧問
 池島 政広 亜細亜大学 前学長
 石橋 正男 西武鉄道株式会社 取締役副社長
 上條 清文 東京急行電鉄株式会社 取締役会長
 北中 誠一 小田急電鉄株式会社 前取締役相談役
 小長 啓二 AOCホールディングス株式会社 相談役
 小沼 通二 学校法人 五島育英会 前顧問
 三枝 正幸 京王電鉄株式会社 取締役会長
 櫻井 孝顕 第一生命保険相互会社 取締役相談役
 村松 英夫 武蔵工業大学 学長
 平松 一朗 京浜急行電鉄株式会社 取締役相談役
- [常務理事] 長 井 弘道 (財)とうきゅう環境浄化財団事務局長
- [監事] 中川 幸次 財団法人 世界平和研究所 副会長
 山田 匡通 東京急行電鉄株式会社 常勤監査役
- [評議員] 井原 國芳 東急建設株式会社 特別顧問
 越村 敏昭 東京急行電鉄株式会社 取締役社長
 堺 孝夫 東横学園女子短期大学 名誉学長
 篠原 三代平 財団法人統計研究会 会長
 鈴木 學 株式会社 日立製作所 執行役常務
 蛇川 忠暉 日野自動車株式会社 取締役会長
 高木 利武 株式会社 東芝 顧問
 高梨 昌芳 横浜商工会議所 前会頭
 高橋 信吾 東京大学 名誉教授
 鳥井 信吾 サントリー株式会社 取締役副社長
 長澤 明彦 川崎商工会議所 会頭
 福原 義春 株式会社 資生堂 名誉会長
 藤嶋 昭 (財)神奈川科学技術アカデミー 理事長
 水田 寛和 株式会社 東急百貨店 取締役社長
 諸江 昭彦 キヤノン株式会社 常務取締役
 山口 裕啓 学校法人 五島育英会 理事長

▶▶ 役員・評議員

(敬称略50音順)

- [会長] 清水 仁 東京急行電鉄株式会社 取締役相談役
 [理事長] 五島 哲 東京急行電鉄株式会社 取締役調査役

発行日 平成19年3月1日

編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14

(渋谷地下鉄ビル 8F)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

ホームページ <http://home.q07.itscom.net/tokyuenv>

